

2018年8月30日
第101号

全労連

全労連
憲法・平和グループ

憲法 平和闘争ニュース

沖縄県知事選挙 9月30日投票 玉城デニー氏勝利へGO!



全力で奮闘、
支援します!

祈 当選!!

全労連事務局から、「がんばろう！」

2018/8/29

11月18日に予定されていた沖縄県知事選挙は、翁長雄志知事の急逝により、9月30日の投開票でおこなわれることになりました。超短期決戦となりますが、掛け値なしに沖縄の100年、200年先の未来がかかった県知事選挙です。必ず勝ち抜く必要があります。

これにより、沖縄の選挙戦は、9月9日投票の統一地方選挙(名護市など)、9月30日投票の知事選挙・宜野湾市長選、10月14日投票の豊見城市長選挙、10月21日投票の那覇市長選挙と連続して行われることとなりました。

その争点は、いずれの選挙も「建白書3項目(普天間基地撤去、オスプレイ撤去、辺野古新基地建設反対)」にあります。とりわけ、辺野古新基地建設については、沖縄県による埋め立て承認撤回と、国による土砂搬入・投入の危険性の高まりという非常に緊迫したせめぎあいの中での選挙戦となります。

基地に頼らない「平和で誇りある豊かな沖縄」という翁長知事のめざした道を引継ぎ、ゆらぐことなく「建白書」実現の立場に立つ候補者をすべての選挙戦で勝利させ、新基地建設を強行しようとする安倍政権に痛打を与えることは、民主主義擁護の立場からも全国的な課題です。

沖縄県労連は、8月18日に開催した第19回幹事会において、翁長知事の遺志を受け継ぎ、建白書実現の

立場で出馬する候補を推薦し、その勝利のために奮闘することを決定しました。全労連は、沖縄県労連の支援要請を受け、8月22日の第1回幹事会で沖縄県知事選挙でのオール沖縄統一候補の支援を確認し、勝利にむけてたたかうことを意思統一しました。

8月29日、自由党幹事長の玉城デニー氏(衆議院沖縄3区)が「翁長知事のあらゆる遺志を引き継いでいきたい」として出場を表明したことを受け、全労連は、小田川義和全労連議長・穴井輝明沖縄県労連議長連名の「アピール」を出し、玉城氏勝利に向けた行動を開始します。

沖縄県知事選挙への物心両面の支援、協力をつよめ、必ず勝利しましょう。

記

1. 各組織において、玉城デニーさんの支援決定をお願いします。
各単産の県組織・加盟組織へ支援・協力のよびかけてください。
沖縄県内に加盟組合を有する単産は、加盟組合に対する激励とともに、取り組み強化を呼びかけてください。
2. 全国から沖縄に仲間を送って、活動を展開してください。
3. 沖縄県に在住する知り合い・友人の皆さんへ支持をよびかけてください。
また、地元での活動への参加・協力を働きかけてください。
各地から、電話で支持を呼びかけてください。

4. 選挙募金に協力してください。

<支援連絡先>

沖縄県労働組合総連合(沖縄県労連) 議長 穴井輝明
〒900-0026 那覇市奥武山町26-24 奥武山マンションビル201号室
Tel 098-859-2110 Fax 098-859-1820
E-mail:office@okinawakenroren.org

<カンパ振込先>

沖縄県労働金庫 本店営業部
普通預金 口座番号 2526028
沖縄県労連

以上

【当面の行動】

9月1日(土)～9月9日(日)は署名運動全国一斉推進週間です!

- ・9月5日(水)12:00～13:00 全労連 3000万人署名宣伝行動 新宿駅西口
全教は9月5日(水)夕方、医労連は9月7日(金)昼、
東京、年金者組合の仲間は9月7日(金)昼「オール大塚」で宣伝します。
- ・9月19日(水)18:30～「戦争法強行から3年 怒りの19日行動」
東京では日比谷野外音楽堂で集会があり、終了後、銀座パレードがあります。

<全労連アピール>

沖縄と日本の未来をかけた沖縄県知事選挙勝利に力を寄せてください

翁長雄志沖縄県知事の急逝にともなう沖縄県知事選挙が、9月13日告示、30日投票でたたかわれます。この選挙は、沖縄県名護市・辺野古への新基地建設の強行を許さず、基地負担の軽減を求め、平和で豊かな島の実現を願う沖縄県民の未来をかけたたたかいです。

同時に、憲法9条に自衛隊を明記して戦争する国に加速しようとしている安倍政権の暴走、立憲主義を蹂躪してやまない強権政治への審判の意味をもつ全国的選挙です。

6月23日の「沖縄全戦没者追悼式」で翁長知事は、唯一地上戦が行われた沖縄のところが平和の希求にあること、在日米軍専用施設面積の70.3%が集中する沖縄の苦悩を語り、朝鮮半島の緊張緩和の動きが始まった下でも20年以上も前に合意した辺野古への移設が普天間飛行場問題の唯一の解決策と言えるのかと糾弾し、「辺野古に新基地は造らせない」という決意は沖縄県民とともにあると宣言しました。

この宣言の延長線上で、辺野古埋め立て承認撤回に向けた手続きが開始されましたが、その直後の急逝でした。

翁長知事には、当選直後に全労連新聞（2015年1月15日付・第462号）の対談に応じいただきました。

「イデオロギーよりアイデンティティ」、「基地は沖縄経済の最大の阻害要因」との立場で、保守と革新が共闘する「オール沖縄」の力で、「普天間基地の即時閉鎖・撤去、県内移設断念、オスプレイ配備中止」の建白書の実現をめざす、とを熱く語られました。

知事就任後も、中央政府の様々な妨害や、機動隊など動員した基地建設の押し付けなどをはねのけ、安倍政権と真正面から対決され続けました。

要求の一致点で真摯に共闘発展させようとするその姿勢が全国に伝わり、市民と野党の共闘こそ安倍政権と対決する道との共感が高まり、その後の国政選挙などに大きな影響を与えました。その点で、オール沖縄のたたかいは、オールジャパンのたたかいです。全労連にとっては行動綱領の「米軍基地撤去」実現と連動するたたかいです。

安倍政権は、辺野古への土砂投入強行の姿勢を示し、臨時国会での9条改憲発議を公言するなど、戦争する国への暴走をさらに強めています。その情勢下での沖縄県知事選挙です。安倍政権の憲法破壊、民意・地方自治蹂躪を許さない、その世論と行動の集中点に県知事選挙を位置付けてたたかいぬきましょう。

後継候補として「オール沖縄」の総意で推薦された玉城デニー氏は、2015年夏の戦争法・安保法制反対のたたかい以降、国会前をはじめとするたたかいに繰り返し参加し、市民と野党の共闘の前進に大きな役割を發揮してこられました。「戦後の沖縄を体現する政治家」であり、固い信念をもった政治家です。

「オール沖縄」を体現する玉城候補、翁長知事の遺志を引き継ぐ玉城候補の勝利に、全国の仲間の皆さんの物心両面にわたる最大限のご支援をお寄せいただくよう、心から訴えます。

2018年8月29日

沖縄県労働組合総連合 議長 穴井 輝明
全国労働組合総連合 議長 小田川義和